



新・みやぎ・シー・メール第3号

発行：平成30年6月20日

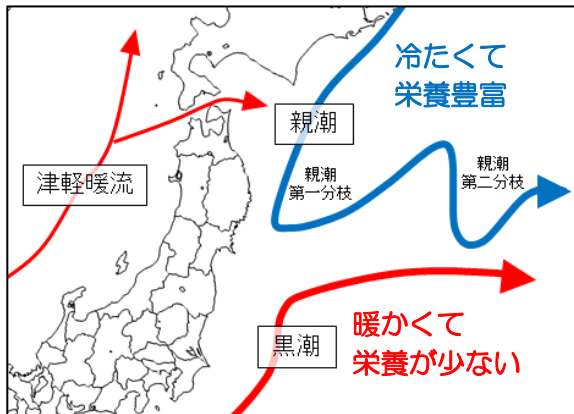
宮城県水産技術総合センター 〒986-2135 宮城県石巻市渡波字袖ノ浜 97-6

TEL: 0225-24-0159 FAX: 0225-97-3444

海況と生物について

環境資源チーム

三陸沿岸は、南から流れてくる黒潮と北から流れてくる親潮、ふたつの海流が混ざり合う海域です。暖かい黒潮と栄養豊富な親潮が混ざり合うことで非常に良い漁場となりますが、年ごと、季節ごとによって環境が大きく変動する、複雑な特徴を持つ海域でもあります。



親潮が最も南下するのは3～4月。オキアミ、コウナゴなどの春漁が行われる季節です。今年は黒潮の勢力が強く、暖かい水が親潮を押しつけて宮城県沿岸に滞留する形となりました。

オキアミは親潮が南下すると、その先端近くの冷たい海域に寄せられて群れをつくる習性があります。今年は親潮が宮城県沿岸まで南下しなかったため群れが形成されず、記録的な不漁となりました。また冷たい水を好む魚コウナゴも、暖水が強かったため不漁となりました。

しかしその一方で、今年のような海況のとき、本県沿岸で多く見られる生物もいます。

この全長 10 cmほどの、ペラペラとした葉っぱのような魚、何だか分かりますか？



これはまだ、未発達な子供の状態です。今年5月の調査で、仙台湾内で漁獲されました。

もう少し育つと、体が縮み（驚くべきことに、成長するときに小さくなるのです！）、体型が細くなる一方で厚みが出て、こんな姿になります。



だいぶ親に似てきました。察しのいい方はもうおわかりかもしれませんね。

何の子供かという……マアナゴです。



マアナゴがどこで生まれるのかは近年まで分かっていませんでしたが、2012年に日本のはるか南の海、フィリピン東方沖に産卵場があることが分かりました。

マアナゴの子供は流れの影響を受けやすい、ペラペラの形で生まれます（これを葉形仔魚といいます。ウナギも同じです）。黒潮に乗って日本沿岸に来遊し、そこから各地の湾内などに入り込んでおなじみのアナゴの形になるのです。

今年は黒潮の勢力が強く、暖かい水が沿岸に波及したため、仙台湾にたどり着く仔魚の量が多くなっているのです。少しでも多く生き残って、立派なマアナゴに育ってほしいですね。

このように、宮城県沿岸で見られる生物は、黒潮と親潮の動向に大きく影響を受けます。

黒潮の勢力が強く、水温が高い状態は6月現在も続いています。そのため南の黒潮域で生まれ、餌の豊富な海域で大きくなる、マイワシやサバなど浮魚類の北上が例年より早くなっています。

魚屋さんに行ったら、ぜひ商品のラインナップから、海況の変化に思いを馳せてみてくださいね。

宮城県水産技術総合センター

ホームページ URL: <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/mtsc/>